

# 1 物語(1) 「が」「は」「の」の使い方 (p2・3)

## ◆保護者の方々へ◆

③ (本文p10・11①②と対応)

本文の、学習の要点例文①②をもう一度復習させ、もし「が」と「は」を入れかえた場合、その文がどのような文を導くようになるのかを、お子様に考えさせてみてください。

④・⑤ (本文p11④・⑤)

「が」と言い換えられる「の」は、主語の意味をもっているということを確認させてください。ドリル⑤のイは「ので」(接続助詞)で一語です。

# 2 説明的文章(1) ことばの変化 (p4・5)

## ◆保護者の方々へ◆

③・④ (本文p14・15①②と対応)

「活用する」とは、ことばの形が、意味や後につくことばに応じて変わることなのだ、ということを理解させてください。活用することばには、「(何が) どうする」(Ⅱ動詞)、「(何が) なんだ」(Ⅱ形容詞) などのように意味をもつものと、「ない」「られる」(Ⅱ助動詞) のように、ことばに付いて活用するものがあるのです、おなじ活用することばにも二種類あることをつかませましょう。

# 3 随筆(1) 熟字訓 (p6・7)

## ◆保護者の方々へ◆

③・④ (本文p18・19①・②と対応)

熟字訓は特殊な読み方です。出てきたらその場で覚えてしまうように、心がけさせてください。意味を考えながら学習すると、より覚えやすくなるので、ひとつひとつ漢字の意味を考えながら問題にあたるようにアドバイスをお願いします。

# 4 詩(1) 文を書く (p8・9)

## ◆保護者の方々へ◆

③・④ (本文p22・23①②と対応)

つなぎことばや修飾語としてはたらくことばには、対応するべき文末がある場合があります。本文に③「ぜんぜんくはない」、ドリルに③「なぜならくからだ」などがありますので、注意して、文にあわせてください。